

日本鉱物科学会 平成 26 年度第 2 回 定例評議員会議事録

日時：平成 27 年 5 月 26 日（火）18:45～20：30
会場：幕張メッセ国際会議場 102A

評議員会出席者：

会長：小山内康人，副会長：土山明
評議員：赤坂正秀，永井隆哉，片山郁夫，木村純一，廣井美邦，
込本尚義，池田剛，大和田正明，河上哲生，川本竜彦，
平賀岳彦，宮脇律郎，柳澤教雄，井上徹，上原誠一郎，
黒澤正紀，小暮敏博，高澤栄一，土谷信高，長瀬敏郎，
中村美千彦

委任状：榎並正樹，本間寿，宮嶋敏，安東淳一，土屋範芳，
吉朝朗，阿部なつ江，下林典正，

欠席者：杉山和正

幹事会メンバー出席者：

会長小山内康人，副会長土山明，庶務幹事永井隆哉，
会員幹事佐藤彦，会計幹事小暮敏博，行事幹事黒澤正紀，
英文誌編集幹事平島崇男，渉外幹事井上徹，広報幹事仲
雅雄，Elements 幹事井上徹，特務幹事(会則・内規検討担当)
川本竜彦，特務幹事(会員増対策担当)片山郁夫，特務幹事
(対外雑誌担当)大谷栄治，特務幹事(法人化対策)大和田
正明，三鉱連絡委員永井隆哉，黒澤正紀，選挙管理委員会
中野伸彦，地惑連合連絡担当大谷栄治，黒澤正紀

欠席者：和文誌編集幹事木村眞，会計監査委員後藤章夫，加々島慎一，
選挙管理委員会栗林貴弘，地球惑星科学連合 2015 年度学
会選出プログラム委員：三宅亮(正)・角替敬昭(副)，橘省吾
(連合登録連絡委員)

各種委員会委員長出席者：

行事委員会委員長黒澤正紀幹事，JMPS 編集委員会委員長
平島崇男幹事，渉外委員会委員長井上徹幹事，広報委員会
委員長仲雅雄幹事，Elements 委員会委員長井上徹幹事，
将来企画委員会委員長土山明委員長，新鉱物・命名・分類
委員会委員長宮脇律郎委員長，博物館委員会委員長坂野靖行
委員長，法人化準備 WG 委員会大和田正明委員長，鍵裕之
Goldschmidt 連絡委員

欠席者：GKK 編集委員会委員長木村眞幹事，教育普及委員会委員
長奥山康子委員長，名誉会員推薦委員会村上隆委員長，
2016 年年会 LOC 委員長奥野正幸委員長

各賞選考委員会委員長出席者：

日本鉱物科学会論文賞選考委員会池田剛委員長，日本研究奨
励賞選考委員会川本竜彦委員長，日本鉱物科学会応用鉱物科
学賞選考委員会柳澤教雄委員長，研究発表優秀賞選考委員会
片山郁夫委員長

欠席者：日本鉱物科学会賞選考委員会榎並正樹委員長，渡邊萬次郎
賞選考委員会吉朝朗委員長，櫻井賞選考委員会松原聡委員長

会議に先立ち，会長より書記として上原誠一郎会員が指名され，
満場一致で承認された。

I. 報告事項

1. 会員報告と入会承認 (佐藤会員幹事)

平成 26 年度第 1 回評議員会以降の会員動静について報告があっ
た。物故会員 3 名(永年会員 3 名)，退会 22 名(シニア会員 3 名，
一般正会員 8 名，学生正会員 11 名) 購読会員 3 件，入会 3 名(シ
ニア会員 2 名，学生正会員 1 名)，除名会員 2 名(一般正会員 2 名)
である。平成 27 年 5 月 20 日現在，一般正会員 660 名，シニア会
員 147 名，学生正会員 78 名，永年会員 39 名，名誉会員 6 名で会
員数計 930 名となった。賛助会員(11 件)，購読会員等を含む団体
登録は 167 件で総数は 1097 件である。

2. 広報報告 (伴広報幹事)

広報活動について以下の報告があった。

- 1) 広報委員会委員の主な役割の分担は，橘委員：将来計画委員会との連絡，門馬委員：ホームページ，亀井委員と奥村委員：学会でのブースである。
- 2) 会員への ML 送信を実施した(2014 年は 32 件，2015 年は現在までに 9 件)。内容は，学会事務連絡，公募案内，関連学会案内など。
- 3) 連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応を行った。1. 学会発行の科学雑誌，年会，表彰，入会案内，2. 学会会員の執筆した書籍の展示・紹介，3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介ポスター，4. 「一家に 1 枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介，YMO 集会パンフレット。
- 4) 地学オリンピックでの「一家に 1 枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター配布。ポスター残部が僅かとなったため改めて印刷した。印刷代は特別会計から行った。秋の年会でも配布予定である。今後，さらに印刷する必要がある場合に今回同様に特別会計から拠出するかどうかは検討の余地あり。

3. 渉外報告 (井上渉外幹事)

渉外活動については以下の報告があった。

2012 日本地球惑星科学連合大会(2012JpGU) から始めた鉱物科学会ブースにおける「本学会会員執筆書籍の展示」は，日本鉱物科学会 2014 年年会，及び今回の 2015JpGU へと引き続き行われている。尚，前回の日本鉱物科学会 2014 年年会までに献本された本は 25 冊であり，それらに加えて 2015JpGU では新たに 3 冊(献本)が展示され合計 28 冊となった。

4. 和文誌 (GKK) 編集報告

(木村和文誌編集幹事 代理中村副委員長)

GKK の編集状況について以下の報告があった。

- 1) 平成 27 年 5 月 20 日現在，岩石鉱物科学 43 巻 5 号(9 月号)～44 巻 2 号(3 月号)計 4 号が発行され，掲載件数頁数は以下の通り。原著論文 7 件 107p，短報 1 件 5p，総説 0 件 0p，資料・解説 7 件 59p，新刊紹介 5 件 2.5p，ニュース(他学会案内，教官公募等) 2.5p，投稿規定 3 p，学会記事(評議員会・総会議事録)28 p，年会案内 7p，総目次 2p，広告 9 件 5p，白頁 2p，4 号合計 224p，1 号平均頁 56p。
- 2) 印刷状況：特集号その 5 の 1 論文と他 2 論文 3 編早期公開中 44 巻 4 号(7 月号)1 論文早期公開中。現在査読中論文：3 編(特集号 2 編含む)，受理論文 0 編。
- 3) 特集号「日本の花崗岩とテクトニクス」報告：投稿論文 9 編，査読中 7 編，印刷中 2 編。今後受理順に印刷頁を検討しながら発行予定。
- 4) 編集委員会メール審議報告
1. 特集号の新企画「岩石-水相互作用の研究の発展と鹿園直建先生」を承認した。2. 岩石鉱物科学の活性化のため以下について審議した。1) 依頼原稿内容の変更，新規提案について，2) 上記提案による投稿規定，編集規則の一部変更承認について，3) 依頼原稿とりまとめ世話人の自薦，他薦依頼についてが承認された。3. 依頼原稿世話人を示す。総説：木村眞，総説 造岩鉱物シリーズ：赤坂正秀，分析及び実験の勘所：小暮敏博，博物館紹介：宮島宏，フィールド紹介：中村美千彦，日本新産鉱物情報：坂野靖行
- 5) 委員退任報告：三浦裕行
5. 英文誌 (JMPS) 編集報告 (平島英文誌編集幹事)

JMPS の編集状況について以下の報告があった。

平成 27 年 5 月 25 日(月)13:00-14:00 に JMPS 編集委員会を開催し下記について報告審議された。

報告事項

- 1) JMPS 状況報告：1) JMPS 状況報告：JMPS109 巻 5 号(10 月号)～110

巻2号(4月号)計4号が発行され、掲載件数頁数は以下の通り。
Articles 12件 125p, Letters 8件 41p, Technical 1件 7p, Editorial 1p, 投稿規程 3p, Index 4p, Contents 4p, 白頁 1p, 4号分合計頁 186p, 1号平均頁 46.5p。今後の発行状況: 110巻3号(6月号) 原著論文4編(3編早期公開, 1編再校正中), Letter 2編(印刷中), 110巻4号(8月号) 原著論文2編(1編初校待ち, 1編最終確認中)。

- 2) 2014年9月15日以降2015年5月22日までの投稿数44編についての投稿内容は通常投稿36編(うち海外20編), 年会Letter8編で, 編集状況は受理15編, reject13編, 査読中9編, 返却中4編, 担当待1編, 取り下げ2編(合計44編)である。
- 3) 2013 JMPS Impact Factorは0.656である。(= Cites to recent items 42編/Number of recent items 64編)
- 4) 電子ジャーナル全文PDFアクセス状況について: 2015年3月2484件, 2014年12月2471件, 2014年9月3211件, 2014年4月2704件で, 主な国はアメリカ合衆国, 日本, 中国, オランダ, ドイツ, インド, カナダ, フランス, イギリス, ロシアなどと報告があった。
- 5) 2015 連合大会講演を対象に Letter を募集中: 投稿申込締切日: 2015年6月8日(月)締切日厳守
- 6) 特集号の件: (1) Title: "Metamorphic evolution and continental growth" Tentative schedule: Submission deadline: End of July, 2015, Completion of editing process: End of December, 2015, Publication plan: Beginning of 2016(2) 14編(招待外国人著者4編含む)
- 7) JMPS 学生論文賞に関するガイドラインについて会則・内規検討委員会からの答申あり
- 8) その他: JMPS 投稿の際, 共著者メールアドレス入力を必須にして, 共著者に投稿したことを直接メール自動送信で通知することとする。

審議事項

- 1) JMPS 学生論文賞に関するガイドラインについて最終審議 今後評議会でメール審議する予定。
- 2) 新編集委員就任: 市山祐司(千葉大学)
- 3) 特集号「招待外国人著者」のページチャージ無料該当者(3,4名)を JMPS 編集委員会で審議決定した。下記著者について評議員会メールで承認を得ることとなった。1. Harley, S.L., (Edinburgh Univ.) 2. Fitzsimons, I.C.W.(Curtin Univ.) Chris Clark (Curtin Univ.) and Alan Collins (Univ. Adelaide):3. Kelly, N.M. (Univ. Colorado): 4. Jargalan S. (Mongolian University of Science)。
- 4) ページチャージ割引クーポンの具体的な実施に向けての具体案を検討したが, 評議員会では継続審議となった。
- 5) その他: 査読担当者から「領有権について係争中の海域の国境線について, 著者の母国政府の見解を踏襲した国境線を示す図表がある」との指摘があり, 今後は, 「学術論文に政治的問題を持ち込ませない」との基本方針を, 査読担当委員間で情報共有を計るとともに, 投稿規定に「科学論文を利用して政治的宣伝を行ってはならない」のような内容の文言を類規することにした。

6. 庶務報告(永井庶務幹事)

平成26年度第2回評議員会までの対応について以下のように報告された。メール発信は, 評議員会関連20件, 会員への連絡10件を行った。また, 10件の連合関係の事案に対応した。後援2件, 共催1件, 協賛9件について報告があった。なお, 2015/01/28日本地質学会「地層名等の層序単元登録に係る委員会」委員として石川正弘会員を推薦し, 2015/04/10 法人化問題について法人化準備WG委員会が専門の公認会計事務所(東京)で第2回目の説明を受けた。2015/04/13 日本学術振興会賞受賞候補者推薦書類提出, 2015/04/15 名古屋大学宇宙地球環境研究所(仮称)設立にかかる共同利用・共同研究拠点文科省申請へ学会サポートレター提出した。

7. 行事・年会報告(黒澤行事幹事, 小暮2015LOC委員長)

1. 日本地球惑星科学連合2015年大会: 日程:2015年5月24日(月)~5月8日(木) 会場: 幕張メッセ国際会議場
以下については2015 東京大学 LOC 小暮委員長から説明があった。

2. 日本鉱物科学会 2015 年年会・総会

日程: 2015年9月25日(金)~27日(日) 会場: 東京大学本郷キャンパス理学部1号館(小柴ホールと周辺会場)及び化学館
内容: 「スペシャルセッション」2種 「レギュラーセッション」8種
講演申込み期間: 6月20日(土)9時~7月9日(木)17時
(WEBサイト利用)

3. 昨年の年会後, 行事委員会で以下について検討した。

- 1) 2016年とそれ以降の年会のあり方検討, 2) 年会準備のマニュアル検討, 3) 講演キャンセルのガイドラインの件検討中

8. Elements 報告(井上 Elements 幹事)

Elements の編集体制及び原稿について以下の報告があった。以下の記事を JAMS Society News として編集し, elements に投稿した。JAMS は1年間に6号で8ページ使用可(会員~1000名の学会)であり, 毎号1ページを目安に記事を作成していると以下の報告があった。

2015 No.1 2月号(原稿締切 2014/11/15 提出済み)

FROM THE PRESIDENT, Invitation to the Japan Geoscience Union Meeting 2015
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences Vol. 109, No. 6, December 2014

2015 No.2 4月号(原稿締切 2015/1/21 提出済み)

Hayabusa 2: A long journey to a primitive asteroid has begun (Shogo Tachibana, Hokkaido University)
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences Vol. 110, no. 1, February 2015

2015 No.3 6月号(原稿締切 2015/4/1 提出済み)

Five years from the Hayabusa sample return (Takashi Mikouchi, The University of Tokyo)
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences Vol. 110, no. 2, April 2015

9. 会計報告(中村会計幹事)

日本鉱物科学会平成26年度一般会計中間報告など以下の2点の報告が行われた。

- 1) 平成25年度一般会計中間報告
(平成26年9月1日~平成27年5月18日)
- 2) 2014 年年会計決算報告
(決算書は岩石鉱物科学44巻1号62頁に掲載)

10. 会計監査報告(会計監査委員 代理永井庶務幹事)

2014 年年会計決算監査報告の内部監査報告が示され, 適切に処理されている旨報告があった。

11. 将来企画委員会報告(土山委員長)

5月25日19:15~20:30に第14回2015年将来企画委員会が開催され, 以下のような内容が報告された。

- 1) 法人化について: 大和田法人対策担当幹事から法人化準備WG委員会報告と審議結果報告(下記12番参照)をうけ, 更に将来企画委員会で内容を審議した結果, 法人化を進める方向を評議員会に提案することとなった。
- 2) 他学会との学会開催のあり方: 黒澤行事幹事からの報告について審議し2017年に他学会との合同開催を模索することが提案された。3) 会費と会員種の検討: 法人化に向けて会員種の見直しの意見があったが継続審議となった。

12. 特務幹事(法人化対策担当)報告(大和田特務幹事)

5月25日18:15~19:15に法人化準備WG委員会が開催され, 以下のような内容が報告された。
2015年2月から2015年4月10日第2回公認会計士との法人化打ち合わせに向けて何度かメール会議を開催した。その後, 打ち合

わせ内容(質問と回答)をもとに法人化の組織概要, スケジュール, 会員への周知方法などについて将来企画委員会, 評議員会への報告する資料をメールで協議してきた。この内容を将来企画委員会に提案して審議されたことが報告された。

1 3. 特務幹事(会則・内規検討担当)報告(川本特務幹事)

「JMPS 学生論文賞に関するガイドライン」について検討して評議員会に答申した。この件は評議員会のメール審議を受ける予定と報告された。

1 4. 地球惑星科学連合報告(大谷連絡担当)

2015 年大会も海外からの参加者用に, 日本語で行う講演もポスターも英語表記をお願いしたい。2016 年に AGU と JPGU のジョイントセッションを予定している。現在で国際セッションは 50 程度ですが, 70 程度に増やしたい。2016 年のプログラム委員長は固体セッションの西山忠男教授(熊本大)2017 年に JPGU と AGU のジョイント会合を開催する。プログラム委員会を AGU と統合して, 国際セッション 100 程度を目指す。2017 年のジョイントミーティングのプログラム委員長は Huixin Liu 先生, 等の報告があった。

1 5. 特務幹事(対外雑誌担当)報告(大谷特務幹事)

PEPS は順調に投稿論文を集めている。来年度に IP の数値が出る見込み。PEPS 編集委員会の報告があった。

1 6. 学会会議の報告(大谷学術会議連携委員)

23 期の学術会議が始まり, 学術会議地球惑星委員会の人事がきまった。地球惑星科学委員会の委員長は中村尚東大教授, IMA 分科会関係の会員はいなくなったが連携会員は荒井, 石渡, 西山, 永原, 佐藤努(特任), 大谷各会員となり, オブザーバーは変更なし。大型研究計画の再募集が行われる。大型研究計画の WG が組織され大谷はメンバー。26 日 10:00 より開催されるので, その詳細は幹事会, 評議員会で紹介する予定。科研費の分科細目が検討されている。細目が変わる可能性があることなどが報告された。

1 7. 三鉱連絡会報告(永井連絡会委員)

三鉱名簿の今後についてと, セキュリティを付けた WEB での名簿公開について近々公開予定であることなど, 三鉱連絡会で意見交換したことが報告された。

1 8. 教育普及委員会報告(奥山委員長, 代理永井庶務幹事)

H26 年度高校理科基礎科目にて地学の履修率が大幅に向上したことを受け, その背景となる過去の高校学習指導要領と理科基礎科目の変遷をまとめ, 学会記事とした(※「現行『地学基礎』につながる高等学校学習指導要領の変遷」として, 岩石鉱物科学 44 巻 2 号に掲載)ことが報告された。

1 9. 選挙管理委員報告(中野選挙管理委員)

当評議員会までの候補者推薦締め切りにおいて, 次年度評議員候補者は 17 名, 選挙期間は 7 月 1 日~7 月 31 日に選挙内規通り指定の WEB サイトまたは郵送による投票を行うとの報告がなされた。

2 0. その他

(1) 博物館委員会報告(坂野委員長)

(a) 北川隆司鉱物コレクション巡回展継続について

昨年度に引続き, 今年度も委員会活動の一つとして, 北川隆司

鉱物コレクション巡回展の継続が予定されている。開催場所・日時は, 北九州市立自然史・歴史博物館 4 月下旬~6 月下旬, 富山市科学博物館 7 月中旬~9 月上旬, 福井県立子ども歴史文化館 10 月上旬~11 月中旬であること。昨年度と同様に, 各館での展示において, JAMS が共催や後援あるいは協力団体等となり, その旨会場や配布物等に掲示される予定とのことが報告された。

(b) 国際会議 M&M2016 年日本招致について

2014 年 10 月 23 日付で IMA-CM より開催地決定の投票結果が報告され, M&M2016 の開催地は中華人民共和国湖南省長沙市となり, 残念ながら日本招致不成功という結果となったことが報告された。

(2) 2016 年 Goldschmidt(ゴールドシュミット会議 2016)日本開催の件(鍵連絡委員)

ゴールドシュミット会議 2016 について以下の報告があった。

会期: 2016 年 6 月 26 日(日)~7 月 1 日(金)

会場: Pacifico Yokohama (2014 年の連合大会が開催された場所, 2016 年の連合大会は幕張で開催される予定)

科学委員会: 3 月下旬に地域とジェンダーバランスを考慮した科学テーマとテーマチェアを決定した。テーマチェアには本学会会員も入っている。

運営会社: Cambridge Publications とコンベンションリンケージが分担して進める。たとえば登録関係は CP, 企業展示は CL が担当。

一般向け講演会: 会議終了後の 7 月 2 日(土)に横浜開港記念館で中高生, 大学生, 教員などを対象として開催予定。エクスカージョン: 学会前後に 13 コースを検討し, JTB に見積もりを依頼中。

スポンサー: 趣意書を印刷し, 展示ブース, 広告, 寄付などをお願いできる会社を募集している。

5 月 25 日(月) 13:00~14:00 幕張メッセ JpGU 会場 301A 号室で拡大 LOC 委員会を開催した。

(3) 鉱物科学の教科書執筆の件(井上幹事)

講談社サイエンティフィック「鉱物科学」について以下のような報告がなされた。

編集委員(日本鉱物科学会渉外委員が今回の編集委員を務めています。)

井上徹(愛媛大), 安東淳一(広島大), 阿部なつ江(JAMSTEC), 長瀬敏郎(東北大), 木村 眞(茨城大), 赤荻正樹(学習院大) まずは 2015 年 5 月末頃を目途に第 1 原稿を集める。その後査読。校正を経て来年度春頃に刊行予定で進めています。

第 1 章 鉱物科学の役割・貢献 編集委員

(井上, 安東, 阿部, 長瀬, 木村, 赤荻)

第 2 章 鉱物の種類と分類

宮脇(国立科学博物館) 査読: 長瀬(東北大)

第 3 章 鉱物の結晶構造と X 線回折(結晶学, 結晶化学など)

吉朝(熊本大) 査読: 長瀬(東北大)

第 4 章 鉱物の安定性・相変化と熱力学(相律, 相平衡図など)

永井(北大) 査読: 赤荻(学習院大)

第 5 章 鉱物の物理 芳野(岡山大) 査読: 安東(広島大)

第 6 章 地球表層付近の地質学的過程における鉱物の生成

榎並(名古屋大) (6-1, 3) + 森下(金沢大) (6-2, 5) +

村上(東大) (6-4) 査読: 阿部(JAMSTEC)

第 7 章 地球深部構造と鉱物の相変化

土屋旬(愛媛大) 査読: 井上(愛媛大)

第 8 章 宇宙における鉱物(地球外物質)

野口(九州大) 査読: 木村(茨城大)

コラムを設ける。各章末に演習問題を入れる。

(4) 新鉱物・命名・分類委員会報告(宮脇委員長)

IMA CNMNC 委員長がオーストラリアの Peter A. Williams 教授か

らスウェーデンの Ulf Hälenius 教授に交代した。2015 年に入ってから提出され IMA CNMNC 委員長が審査すると判定した申請の審査・投票が始まった。これまでに承認された新鉱物は IMA のホームページに掲載されている。申請者が記載論文投稿前に鉱物名の公表に同意したものについては Mineralogical Magazine 誌に掲載され、RRUFF の HP にも反映されている。ここに掲載されている IMA 公認の鉱物種はこの 4 月中に 5000 に達した。

(5) 特別な貢献に対しての「日本鉱物科学会表彰」手続きの件
(永井庶務幹事)

一家に一枚ポスター作製に関わっていただいた会員の方への日本鉱物科学会表彰から始まった表彰(運営細則第 39 条)であるが、今のところ、表彰の手続きについてのガイドラインがないので今後ガイドラインを作成することとなったこと、推薦は会員から、推薦理由(鉱物学の普及への多大なる貢献、学会への多大なる貢献など)とともに随時受付、評議員会で決定、総会で賞状授与するとの報告があった。

(6) 斜方晶系呼称変更の報告(永井庶務幹事)

篠田会員の意見が報告された：日本結晶学会誌 57 巻(2015) 131 ページの記事によると、2014 年 11 月 1 日の日本結晶学会総会で、orthorhombic の訳語を直方晶系(斜方晶系)とする、と決議されたようです。この件について、鉱物科学会はなんらかの対応をしておりますでしょうか。授業で晶系の名称を教えるときに混乱をきたすため、鉱物科学会からの何らかの声明を期待します。

(7) 19 大学地球科学系学科長・代表者会議報告(赤坂事務局)

国立 19 大学地球科学系学科長・代表者会議による「地学教育におけるフィールドワークの重要性についての声明(平成 27 年 3 月 1 日)の内容(自然の情報を読み解き、筋道だてて考えられる人材を育成する教育が重要であると考え、今後もフィールドに根ざした教育を推進してゆくと共に、国を挙げてフィールド教育が更に促進されること)が報告された。

II. 承認事項

1. 会員承認[入会、除名：佐藤幹事]

以下のシニア会員 2 名、学生正会員 1 名の入会申込書が回覧され、入会が承認された。また議決により 2 名が除名となり転居先不明者 1 名は調査することとなった。なお、退会者 2 名については再確認することとなった。

シニア会員 2 名

氏名	勤務先	紹介者
小原 祥裕		松原 聡
大友 一夫	東京医薬専門学校	中田正隆

学生正会員 1 名

氏名	在学先名	学年(申込時)	指導教員
小泉奈緒子	大阪市立大学大学院理学研究科 D3		奥平敬元

2. 日本鉱物科学会賞選考委員会受賞候補者報告と承認 (榎並委員長 代理赤坂副委員長)

日本鉱物科学会賞選考委員会榎並委員長、代理赤坂副委員長から報告された小畑正明正会員を平成 26 年度日本鉱物科学会賞第 13 回の受賞者として承認した。

3. 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と承認 (吉朝委員長 代理赤坂委員)

渡邊萬次郎賞選考委員会吉朝委員長、代理赤坂委員から報告された大沼晃助氏を平成 26 年度渡邊萬次郎賞第 31 回の受賞者として承認

した。

なお、大沼晃助氏は平成 24 年 5 月 24 日に当学会を退会されており、渡邊萬次郎賞規定第 2 条「会員に贈呈する」に沿わないが、現在、大沼氏は研究業績、学会への尽力が認められ名誉会員に推薦されていることから、当選考委員会から特例の推薦承認願いがあり、評議員会でこのことを審議したうえで、受賞者として承認した。

4. 日本鉱物科学会論文賞選考委員会受賞候補者報告と承認 (池田委員長)

日本鉱物科学会論文賞選考委員会池田委員長から報告された以下の 1 編を受賞論文として承認した。

平成 26 年度日本鉱物科学会第 16 回論文賞受賞候補論文

Title: Coexistence of jadeite and quartz in garnet of the Sanbagawa metapelite from the Asemi-gawa region, central Shikoku, Japan. JMPS 109, 169-176, 2014

Authors: Taguchi T, Enami M.

授賞対象著者：田口知樹、榎並正樹

5. 日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者報告と承認(川本委員長)

日本鉱物科学会研究奨励賞推薦委員会川本委員から報告された奥村 聡会員、瀬戸雄介会員、中野伸彦会員を平成 26 年度日本鉱物科学会第 16 回、第 17 回、第 18 回の受賞者として承認した。

6. 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と承認(柳澤委員長)

日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会柳澤委員長から報告された豊田丈紫氏を平成 26 年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第 8 回受賞者として承認した。

7. 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と承認 (松原委員長：代理宮脇委員)

櫻井賞選考委員会松原委員長、代理宮脇委員から報告された永嶋真理子会員を平成 26 年度櫻井賞第 42 回受賞者として承認した。

III. 審議事項

1. 法人化の件(大和田法人化準備 WG 委員長)

法人化準備 WG 委員会で検討協議され、将来企画委員会で承認された以下について資料をもとに質疑応答がなされ審議した結果、法人化に向けて進むことが承認された。

- 1) 法人化への移行を積極的に推進する。ただし、その設立には、組織の変更を伴うので、財政面も含め、さらに多方面から検討し、会員への周知と同時に広く会員からの意見を聞きながらすすめる必要がある。
- 2) 時期：2016(平成 28)年 9 月、金沢大学での総会時に法人への移行を決議する。同年 9 月 30 日に任意団体を解散。同年 10 月 1 日から法人としてスタート。
- 3) 法人化の概要：(1) 機関設計案(社員案を含む)(2) 設立社員案、(3) 理事・監事案、この評議員会で承認された後、上記「3. 概要」を HP、GKK、メール等で周知し、2015(平成 27)年 9 月の総会(東京大学)で承認を得る。

2. 名誉会員推薦委員会答申について (委員長村上隆、代理小山内会長)

日本鉱物科学会名誉会員推薦委員会村上委員長、代理小山内会長から、青木義和会員、大沼晃助氏、蟹澤聰史会員、久城育夫会員、小藤吉郎会員、武田 弘会員、堀 秀道会員の 7 名を名誉会員に推薦することへの答申があり、審議の結果、満場一致で評議員会

から名誉会員として総会に推薦することが承認された。(今後は総会での議決で決定する)

3. 鉱物科学若手の会(YMO)の支援について (片山特務幹事)

若手の会(YMO)の連合大会夜間小集會会場費支援について依頼があり、審議の結果支援が承認された。

4. 「日本鉱物科学会表彰」授与推薦提案 (坂野博物館委員会委員長)

博物館委員会から、豊 遙秋会員への日本鉱物科学会表彰への推薦があり、審議の結果、日本鉱物科学会表彰授与が承認された。

5. 他団体からの学会推薦依頼への推薦方法について

(永井庶務幹事)

日本学術振興会賞、日本学術振興会育志賞、文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞、IMA medal について、継続的な推薦方法などについて当学会研究奨励賞、学会賞などのリストから該当者を推薦する手続きについて審議され、ガイドライン作成または該当する賞内規の変更も含めて検討していくことが承認された。

6. 副会長候補者選出に関する内規 5 項(3)の問題点について、今後の説明 (永井庶務幹事)

平成 26 年 9 月 18 日開催の平成 26 年第 1 回評議員会での審議の結果、2015 年 5 月の第 2 回評議員会で継続審議することとなった標記題点について、9 月の総会法人化審議結果後まで延期することを提案し、審議の結果承認された。

7. 外国人留学生学生正会員の帰国後のサポートについて

(佐藤会員幹事)

平成 26 年 9 月 17 日開催の平成 25 年第 3 回評議員会において、外国人留学生学生正会員の帰国後のサポートについて審議され、サービスを限定して会費を低価格とする発展途上国限定の海外会員をつくる検討を会員担当で開始することが承認されたことから、その後会員担当で検討して今回ガイドライン案を提案し審議されたが、検討の余地ありと 9 月の評議員化への継続審議となった。

8. 年会開催地の件 (黒澤行事幹事)

- 1) 2016 年年会開催地 (金沢大学)については、2016 年 9 月 23 日~25 日(金・土・日) とすることが承認された。
- 2) 2017 年年会開催地の件については、将来企画委員会からの提案の同日開催を模索することについて審議承認された。

9. その他

1) 評議員会や各種委員会の日程が発表時間に重なる件

(永井庶務幹事)

年会やの連合大会開催中の評議員会や各種委員会開催設定について審議され、連合大会前日午後、年会の前日午後開催することなどについて今後意見募集をしていくことが承認された。

2) 特別委員会設置の件 (永井庶務幹事)

斜方晶系呼称変更に対する鉱物科学会としての対応を審議し、以下のメンバーからなる「検討委員会」を作り、学会として対応を秋の年会まで答申していただくこととなった。

検討委員会メンバー：松原 聡、宮脇律郎(委員長)、赤坂正秀、木村 眞、杉山和正、吉朝 朗